

1. 件名：泊発電所3号炉の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する面談

2. 日時：令和5年8月23日(水) 13時30分～13時55分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与

北海道電力株式会社：松村執行役員 他8名

三菱重工業株式会社 2名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ）
- ・ 泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ）（補足説明資料）
- ・ 泊発電所3号炉 津波評価のうち地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せについて
- ・ 泊発電所3号炉 津波評価のうち地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せについて（補足説明資料）

<<本年8月22日に受取済み>>

- ・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について
- ・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について（補足説明資料1）

- ・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について（補足説明資料 2）

時間	自動文字起こし結果
0:00:04	規制庁谷です。
0:00:07	面談を始めたいと思います。
0:00:10	今日はですね審査の進め方ということちょっと内容としてはね津波評価のお話と、あと火山の話風間昨日資料が、
0:00:21	提出されているんですけども、
0:00:23	その資料の内容について、お伝えすると。
0:00:28	ということで面談にしています。
0:00:31	それで、まず
0:00:35	津波の方から、
0:00:38	これ、津波の方は、ヒアリング今申し込まれてて、資料もですね今日の日付の資料っていうのが出てきています。
0:00:47	ただですね、
0:00:48	この資料を見ると、まだそんな細かくは見れてないんですけども、
0:00:56	結局、その論理構成として大事なところがですねきちんと説明。
0:01:02	できて、
0:01:04	いないような、わからないと、何を結局何をもって、
0:01:09	波源、
0:01:10	選定が妥当なのかつつまりか、コメント回答になっているのかと、会合での指摘を答えているのかっていう論理構成がですね、
0:01:21	非常に、
0:01:23	わかりにくい、なおかつ最小の方から全体像、
0:01:30	評価の全体像みたいなものがなかなか見えない。
0:01:34	ような資料で、パーツがもう何かバラバラになっているような印象を、
0:01:41	これ、そんなに詳しく見れてないですけども、
0:01:44	受けました。なのでですね、少しですね、
0:01:50	何を、
0:01:51	論理構成として何名、何を
0:01:54	こう伝えるのか、どういうことだとか、あと下降側は一体何を、検討してどんなことをきっちり検討しているのかっていうのが、
0:02:05	もうちょっとちゃんとわかるような資料にさせていただいて、そっからヒアリングをしたいというふうに我々考えてます。
0:02:14	なのでですね津波についてはですね。
0:02:20	資料をですね、再構成して、
0:02:23	特に論理構成の部分が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:26	わかるような資料、わかりやすい資料をですね、作っていただきたいと言うことをお伝えします。
0:02:34	まず津波について、
0:02:39	どうですか何か言いたい。
0:02:41	北海道電力の方から何か意見があれば、
0:02:45	聞きますけど、
0:02:52	北海道電力奥寺です。
0:02:54	今回のまとめですけれども、
0:02:57	コメント回答と、コメント回答を踏まえた、
0:03:01	まとめ資料を、予定でそれぞれ、
0:03:04	本体と補足資料という形で整理してきて
0:03:08	論理構成の部分、あれは例としては、
0:03:13	コメント回答の、
0:03:15	冒頭の30ページの
0:03:18	前回のヒアリング等々、複数回、
0:03:23	事実確認の場がありまし
0:03:26	続いて、
0:03:29	我々の考えとしては、わかるような流れがわかるような形で、
0:03:35	取りまとめてきたつもり。
0:03:37	規定はありましたけれども、
0:03:39	冒頭、谷さんの
0:03:42	言葉がございましたので、
0:03:44	その辺あたりのところを、事実確認結果といいますか、大きなところをお伺いできればなと思ってございます。以上です。
0:03:56	はい、谷です。そうですね例えばですね今の資料で、
0:04:01	水位上昇側は、
0:04:04	なぜ、今の検討で、十分な
0:04:09	何て言うんですかね、波源設定として、
0:04:12	妥当な波源が選定できていると。
0:04:16	いうことはどこに書かれていますか。
0:04:19	ちょっと具体的な何点か
0:04:22	そこの大きな部分の論理構成を確認させてください。
0:04:27	当北海道電力の青木です。水位上昇側というところで、上昇側については、川シライ一般の組み合わせと2羽以降の組み合わせでございます

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:37	そのうち最大ケースになるものっていうのが、前者の川白一般の組み合わせっていうところが特徴のところからわかっておりますのでそちら妥当性というところを主に回答させていただきます。
0:04:48	当ページとしてはコメント回答資料と書いてある資料の 8 ページ 9 ページ。
0:04:54	のところで説明させていただきます。
0:04:59	8 ページでは、組み合わせ評価の上昇側 2 に関してというところで全体の評価のフローの全体像を書いております。
0:05:09	その中で、当社の組み合わせ評価というところで、5.2 章の地震に伴う津波の最大ケースの組み合わせ評価、5.3 章のピークの水位が高い波源の位相変動を考慮した組み合わせ評価。
0:05:21	5. 幼少のピークが重なる波源の組み合わせ評価という三つの評価やっております
0:05:26	それぞれの考え方、位置付けっていうものを整理したものが 9 ページ側で書いてるものになっており、
0:05:33	まず、9 ページの一つ目のマルというところで、こちら 5.2 章の最大ケースの位置付けになりますが、
0:05:40	あと地震津波のそもそものピークの水位が高い波源というものは、組み合わせをした後においても、水位が高くなると考えておりますのでこの 5.2 章の組み合わせ評価をやっているとところになり、
0:05:52	こちらについてはどのサイトでもやってる評価というところで基本的な評価というふうに考えておりまして、
0:05:59	これまでの審査会合でも説明してきたものになっております
0:06:03	そこから加えて泊発電所の波源の特徴というところで、単純にピークは水励んだっていうだけではなくて、かつ、ピークが重なる波源、川シライっぱと重なる波源というものが、
0:06:15	組み合わせ評価上水位が高くなると考えておりますので、
0:06:19	そこから 5.3 章 5.4 章という評価を追加してごさい。
0:06:24	5.3 章の評価というものは、前回の審査会合で説明した内容になっておりまして、
0:06:30	やり方の手順としては最初にピークの水位が高い波源
0:06:35	というものを対象にして、位相をずらして重なる波源を見つけるというような検討の方法をやっており、
0:06:41	一方今回説明指摘事項の 33-1 に該当するところですが今回説明するものについては、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:49	最初にピークが重なる波源というものを見つけた後に、いろいろな断層パラメータの変動を考慮してピークの水位が高い波源を見つけていくと、いうアプローチの仕方をしており
0:06:59	で目的については冒頭に書いております通り、ピークの水位が高くてかつピークが重なる波源というものを見つけるところを目的にしております、その見つけ方というところで、最初に位相考慮したものが、
0:07:12	5.4 章の検討、最初に、
0:07:16	水の観点でピークの性が高いものを見つけたものが 5.3 章というところになっておまして、アプローチの仕方がそれぞれ違うものですが目的としては、ピークが重なって性が高いものを見つけるという目的のものです。
0:07:29	これらの三つの評価、どれもC組み合わせ評価上水位が高くなると考えておまして、その結果から最大径
0:07:39	アノね、やってることは、そういうことをやってますっていうのは、大体これまでも聞いているし、わかる、わかるんですね、やってること。
0:07:49	で、9 ページ、例えば 9 ページで結局青木さん最後にはこの 9 ページの資料、資料の作り方とかそういうことを言ってるんですけども、最後の 9 ページの下のところ、5.25. 35.4 章の、
0:08:04	いずれの組み合わせ評価も水位が高くなると考えられ、これらの組み合わせに、
0:08:09	評価により波源を網羅的に検討することで、
0:08:13	選定すると、こここれが結局あれなんですかこう答え答えというか、北海道電力が、
0:08:20	下限線波源設定としてこれが妥当なんだっていう理由は、5.25. 35.4 をやってるから、妥当なんだっていうことを言いたいですよね。で、そうだとしたらね。
0:08:31	それは説明になってなくて、なぜ 5.2 と 5.35. 4 っていうのをやることで、網羅的になっているといえるのかっていうのを、
0:08:42	ちゃんとね説明しなйтウ。
0:08:46	これはわからないと思いますよ。で、
0:08:50	さすがにねこの 9 ページを見てね、
0:08:54	大丈夫なんです十分できているんですって言われても、
0:08:59	私たちは検討やってる内容今まで聞いているのをベースにすると、アマヤってることもイメージできるんですけど、これを歩こう読んだ人はねさすがにこれで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:11	5.2 章と 5.3 章と 5.4 章やってるから、だから、網羅的にやってるんですけど言われてもね全然これはわからないと思います。
0:09:21	そこをねしっかりと話をして欲しい。で、なおかつ私の質問がそこから上昇側はどうしてなんですかっていう話を、
0:09:29	下からですね、加古川
0:09:35	どうして。
0:09:37	どうしてこの波源設定が妥当なんですか。
0:09:46	どこに書いてますかっていう聞き方がいいですね。はい。
0:09:50	北海道電力の青木です。下降側については、指摘事項の 33-3 で回答しているとう位置付けになっておりまして、16 ページ 17 ページ、お願いいたします。
0:10:08	等考え方の前段というところで、保守性をフォローした時間に切り換えたというところが最初の検討方針で書いてあるものです。今後保守性を考慮した時間について説明させていただきます。
0:10:19	その左下に検討方法というところを書いておりまして、
0:10:23	水位変動量が大きいと、水位が低下する時間も長くなるという一般的傾向を踏まえましてそちらを模式図で書いております。そういった考え方を踏まえまして、
0:10:35	5 章の、先ほど上昇側で説明した 5.2 章から 5.4 章の評価の最大になるものを、保守性を考慮した時間が最大になるものを選んで、
0:10:44	組み合わせ評価上の最大ケースを決めるというフローが 17 ページに書いております。
0:10:50	その中で、
0:10:52	ロジックというところで、一般的な傾向を踏まえると、女性変動量が大きいものが確認
0:10:58	をしてを考慮した時間に対しても厳しくなると、というような考え方がありますのでこれらの検討結果を踏まえて最大ケースを選んでいるというところが該当というふうに考えており
0:11:10	MACE
0:11:14	井谷です。根井。
0:11:16	それって、
0:11:19	まずもって変動量が大きいものを対象にして組み合わせたらいいんだという話。
0:11:31	藤。
0:11:32	今回何か新しくこう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:36	なんていうんですかね、保守性を考慮した時間っていうのを新しく評価項目と加えたこととの関係だとか、
0:11:45	さらに言うと、
0:11:47	このコメント。
0:11:49	指摘事項の 33-3。
0:11:54	との関係っていうのがですね。
0:11:57	土佐さん 13-3 っていうコメントが 3 ページにありますけど、
0:12:01	前回の会合では
0:12:04	追加コガは、
0:12:07	なぜこんなコメントが出たかという、今の波源選定が妥当なのかっていう説明。
0:12:14	をしてください。それについては、追加コガは一層の変動を考慮する必要がないというふうな説明してたんですけどその根拠について、
0:12:25	位相の変動が水位低下時間の算定、算出結果に影響しないという具体例を示すなど明確に説明することっていうふうに、
0:12:33	コメントしていますそ、その
0:12:36	それに対するですね、対応っていうのも全くわからないし、
0:12:41	さらに、だから新しい評価項目を持ってきている話だとか、いやいや、だけでも、
0:12:50	水位変動量が大きいものを見ているからいいんだっていう、この辺の説明がですね、
0:12:57	多分これ、
0:12:59	うまく説明資料できていないと思うんですけど、
0:13:04	どうですか。これだけを説明したらよかったんでしたっけという、
0:13:10	何て言うんですかね。
0:13:12	そもそも説明の順番だとか何だとかがもう、
0:13:16	この資料見てて私はわからなかったし、
0:13:22	審査グループもちょっと何を言ってるのかがわからないのでだから資料はちょっと再構成していただきたいなというふうな、そういう主ことを私たち言ってるんですけどどうですかね。
0:13:34	やっぱり答えれてるんと思っ
0:13:37	アノ伝わるような、資料がつくれていますか今
0:13:49	北海道電力の奥寺です。
0:13:51	ちょっと戻りますけれども、
0:13:54	9 ページの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:56	水位上昇側の検討というのは、
0:13:59	9 ページのところの、
0:14:01	上段と下段、
0:14:03	上段に、どういうものが高くなるのか。
0:14:07	なので
0:14:09	方向でのアプローチ、どの方法でのアプローチというところを上段に書いた上で、
0:14:14	図は、我々としてはわかり、よかれと思ってつけたんでも、ここの図でもって漏れがない高い方向に向かって漏れがないってことを示したつもりなので、
0:14:25	そういう意味で言うと、
0:14:27	ちょっと理由。
0:14:29	とか、論理がわからないってところが、すみません私の理解が足りないのかもしれないんですけどそこがちょっとわからないというのを
0:14:38	正直なところですよそれと、
0:14:40	加古川のところにつきまして 1067 というのは、
0:14:45	保守性を考慮する時間というものをやりますということでどういったもの大きくなるかっていう論理の部分については、
0:14:53	16 ページの右下のところに、
0:14:55	書いてあるんでその補正を考慮する時間ってというのは、
0:14:59	5-2 号のサンゴ-4 というような、水位が大きくなるものをアプローチしているんで、十分な検討がなされているっていうのが 17 ページに書かれているので、そういった論理で考えているのですが細かいところの、
0:15:12	ここは回答のまとめというところで細かい回答の内容というのは、
0:15:16	後段の、コメント回答資料の方に、た。
0:15:20	参照先含めてきちんとまとめているのでそこを要約したのが 1067
0:15:27	我々、
0:15:28	おったのですけれども、
0:15:30	ちょっとそこが、次、私たちの考えているわかりやすいとかまとめというものと、
0:15:39	も、今ここで事実確認で、
0:15:43	求めていたようなところろろが、
0:15:48	合わない部分があるのかなっていうところを感じたのが、
0:15:53	私オクデラの
0:15:56	すみません、回答といたしますか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:59	どういった答え方がいいのかと思ったんですけど
0:16:02	以上です。
0:16:11	規制庁の名倉です。
0:16:15	一言で言ってしまうと、
0:16:18	論理構成がすんなり入ってこない。
0:16:25	だから、
0:16:27	今私たちが求めているのは上昇側下降側にしても、
0:16:31	現状の選定波源の選定で、
0:16:36	組み合わせ評価として影響が大きな
0:16:39	波源が、
0:16:42	網羅的に十分に選定されているでしょう。
0:16:46	ということに対して、
0:16:50	どういう考え方
0:16:53	方針をもって選定をしているのか。
0:16:57	その方針を述べたところ、
0:16:59	に答えが入ってるはず。
0:17:07	で、
0:17:08	以前からもちょっとお話してますけど、
0:17:11	最初に方針を述べて、
0:17:15	それで、方法、
0:17:17	条件に展開していくって話
0:17:20	最初のその方針のところ、
0:17:22	シンプルに明確になっていないんじゃないかっていうところが、私自身の ちょっと大きな問題視
0:17:29	で、
0:17:30	さっき青木さんも含めて説明してくれた内容の中に答え全部入ってるん です、実は。
0:17:34	ただ、
0:17:35	そちらの説明は、
0:17:37	やったことをベースにした。
0:17:39	説明になって
0:17:42	それをもう少し、
0:17:44	考え方
0:17:46	をちゃんと前面に押し出して、説明をちゃんとして、
0:17:50	くれればそれでいいのかな。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:52	深さも上昇側につい
0:17:56	下降側については何が足りないのかっていうのは、
0:18:00	説明の論拠
0:18:02	論理を構成する上で、根拠が明確になってない部分があったりしてるので、
0:18:08	下降側についてはちょっと議論が必要なかもしれないですけど上昇側については、
0:18:12	ほぼやってることはそろってると思うんだけど、
0:18:16	それについて、
0:18:18	ストレートな素直な、
0:18:20	考え方としての方針が述べられていない。
0:18:24	というふうに見て今
0:19:37	結局まあですね私たちこの資料を、そんなちゃんと見れてないんですけど、
0:19:44	最初の何ページかを見みて、何の説明になっているのか。
0:19:49	そしてコード、どこにその北海道電力の最終的な
0:19:54	評価が書かれているのか、その評価っていうのは言葉に直すとどういうことなのかっていうのがですね、資料上わからないし、多分その加古川とかも含めてね。
0:20:06	どういう順番で説明すべきかとかいうのも、
0:20:12	資料がある、資料としてはね検討としてはやってるのかもしれないんですけど、
0:20:18	最終的な論理構成としてこうなんだっていう部分をしっかりと作ってまずそれが伝わってから、何を我々は確認しなきゃいけないのかその論理。
0:20:28	に対して何を確認しなきゃいけないのかっていうのが、わかるようなですね、ちょっと作り方をしてもらって、早急にまたヒアリングをしたいというふうに思ってるんですけど。
0:20:42	そういう方針でいかがですか北海道電力としては、
0:21:01	北海道電力、北海道電力オクデラSAFERた、冒頭から谷さん、或いは調整官から、
0:21:09	いただいた言葉を、もう一度、我々なりに考えてみて、最初の二、三十ページっていうのが我々重要だと
0:21:19	重々承知しながら
0:21:22	その辺を踏まえて考えて再構成したいと思います以上です。
0:21:30	はい。お願いします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:35	次の火山の話に移っていいですか。
0:21:40	火山なんですけど、昨日、
0:21:43	ヒアリング資料が提出されました。で、提出するまで私聞いてなかったんですけど、提出の時にになって、やっぱりコメント回答が、
0:21:54	一部そろっていないという説明が、昨日の段階でありました。で、そのコメント回答っていうのが結構
0:22:05	中身としては大事な部分支笏カルデラの評価
0:22:08	ということで、中身として大事な部分が、
0:22:12	欠けているような資料だったということで、私たちはあのですね今、2週間に1回を目安にして
0:22:24	工程の面談をプラント側と一緒にやっています。やはりそこではですね、資料は、
0:22:31	ここ、この時に出しますって言われてるものっていうのは、もうそれは、資料としてそろったものが出てくるっていう説明を受けてたつもりであって、
0:22:40	ちょっと出された資料とそこで説明を受けてたものにそごがあるというような状況です。
0:22:48	ですね私らたちの方としてはですねこの何か、
0:22:53	コメント回答の流石に肝の部分が、
0:22:57	そろっていないものを、
0:23:00	出されてそれ以外のことをヒアリングで確認してもですね、これ会合には行き着きませんで、従ってですねきちんと最初の約束というか説明通り、
0:23:11	きちんと全部がそろったものをですね、早急に出していただいて、それからまたヒアリングを申し込んでいただけたらなというふうに思っています。で、
0:23:21	資料としては、もう提出されても我々受け取ってるので、これは受け取った資料として公開しますけど、
0:23:30	ヒアリングの方はですね、再度資料提出してもらってから行うようにしますので、それをお伝えしておきます。何か北海道電力から
0:23:42	もう平木というか何かあれば聞きますけど、
0:24:01	角電力サイトウです。
0:24:03	田井さんおっしゃるように今回のお出したヒアリング資料については一部支笏湖風のところがちょっと検討がまだまだ完全そうじゃないと。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:16	ということで、スケジュールを優先という形もあってですねちょっと後、私た面もあるんですが、
0:24:22	そこを除く、ですね立地評価の中もしくは今後の影響評価に繋がる部分というようなところで、大方はのそろってるということで出したつもりだったんですが今おっしゃるように、
0:24:37	規模のところであるというところで我々も認識してますおって、同じするつもりで準備してたところですけどもまだ間に合わなかったのでお出したというところですよ。
0:24:48	この内容については大至急そろえて、追加をして、してですね、ヒアリングを申し込みたいと思いますよろしくお願いいいたします。
0:24:59	井谷です。ご納得いただけたということで、お願いします。なんですけども、
0:25:06	ちょっとね気になったのがスケジュール優先だからこうしたんだっていう話ですけども、
0:25:12	そういうことを、
0:25:14	もともと念頭に思ってた、一部かけた資料をやる、提出してそれでヒアリングした方がいいっていう考えがもともとあるんだったら、
0:25:24	それはね、スケジュール面談とかで説明すべきですし、それをしないんだったらスケジュール面談の意味もないですよ。
0:25:33	かといってねそれをこうスケジュール面談で聞いてもそれでいいよってなったかどうかは別ですけども、
0:25:41	ちょっとその辺のコミュニケーションだとか、きちんとか取りましようということでスケジュール面談やってますので、
0:25:47	その辺をよく考えてですね、今後ですね資料提出の時とかに何かあればですね、ちゃんと前もって言うとか、
0:25:56	お願いいいたします。
0:26:01	火山についても、
0:26:03	先ほどお答えあったように、できるだけ早くですね取りまとめていただいて、ヒアリングを設定したいと思いますのでよろしくお願いいいたします。
0:26:22	規制庁谷です。それで特になければですね面談の方を終了したいと思いますよろしいですか。
0:26:31	はい。それでは今日の面談あります。どうもお疲れ様でした。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。